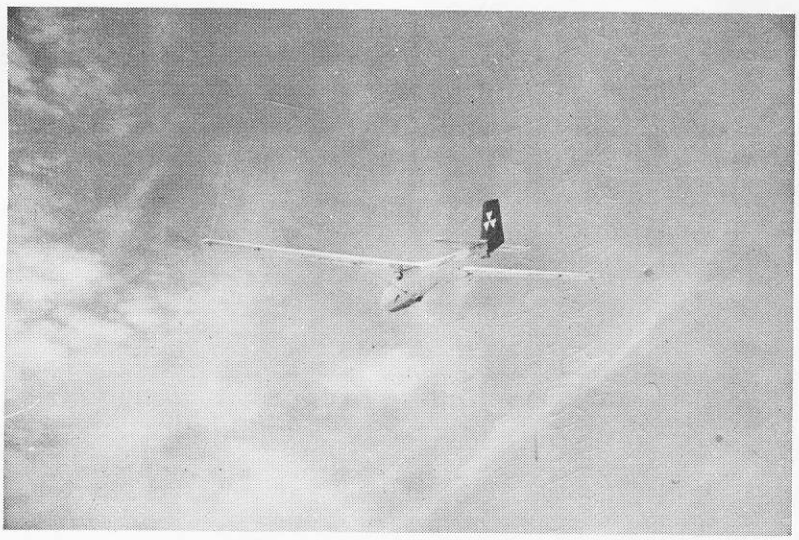
GLIDING



9

DOSHISHA
AVIATION CLUB

ぐらいでいんぐ　第九号

目　次

部長短信 …… 小野　哲 …… 2
監督だより …… 北尾直敬 …… 3
コーチから …… 窪田昌三 …… 4
今後のクラブに望む …… (主将) 竹鼻信昭 …… 7
昭和41年度部活動記 …… 8

OB便り
① 想起すまゝに …… 三浦智介 …… 9
② 飛行機野郎 …… 樺島紳一郎 …… 11
③ OB一年生の懐古 …… 山田裕章 …… 12

合宿報告
① 全国大会に出場して（栄光への脱出） …… 鬼頭章浩 …… 15
② 銀C章科目を獲得して …… 竹鼻信昭 …… 17
③ 初ソロ記 …… 箕浦健二 …… 18

随想
① 小さな鳥人の想い …… 桐山　隆 …… 20
② 暗闇忍法一足飛び …… 木村　保 …… 22
③ 試験官は自分自身である …… 竹鼻信昭 …… 24
④ 紫陽花随想 …… 徳永和子 …… 25
⑤ 孤独の叫び …… 小野田教弘 …… 27
⑥ 単座機と将来 …… 阿部克己 …… 28

新人を斬る，突く，細切れにする。 …… 29
昭和41年自動車後始末の記 …… 30
君も頑張れ，我々も頑張る …… 32
新OB何及へ …… 33
航空部現役名簿 …… 34
編集後記 …… 36
OB名簿 …… 37

部　長　短　信

小　野　　哲

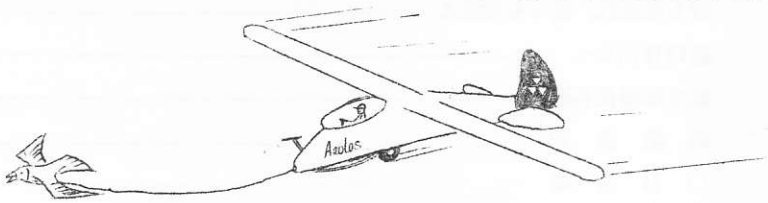
昨秋１１月に，重骨神経痛がひどくなって，１２月とうとう椎間枝ヘルニヤの手術をしました。部長が腰をぬかしたとか，腰を使いすぎたのだとか，口の悪い部員の親切な訪問やしゅうしょうな寄せ書きに，励まされて，仲々つらい病院生活を送り，正月には自宅に帰りました。恢復に手間取って，冬の合宿も，学連の評議会も欠席する始末でしたが，この頃，ようやく平常に近づきました。

この冬の間に，岡山での滞空5時間の獲得者は，次々に現われ，学生グライダー界は，関東の獲得高度，関西の滞空と，地形，気象条件の特性から，それぞれの，ゆきかたを，競ってきました。イオラスは，ますます働かされ，Ｈ２３－Ｃは我航空部員の中堅以上に，とっては，物足りない性能になってきました。関学のボージャンの入手に続いて，立命の，Ka－６ＣＲの発注は，いよいよ我部も，単座上級機の輸入計画に手をそめなければならなくなったようです。病院まで見舞にきた上級生達も，コーチもその事を強調していました。どうやら，国産機の単座開発を考えていた，部長や，監督も，この意見を考慮しなければならなくなって，来たようです。

部員のカンパも，かなり，蓄積され，学生部や，当局に対しての機体購入への強力な援助を，求める働きにも，具体性と熱が入ってきました。退院すると，早速，部長と当局の接触，交渉は続けられました。

もし，この秋，イオラスをつぐ素晴しい新機体が，明徳館前で披露されるようになれば，それは，営々たる現役部員の汗の結晶と，従来，きわめて誠実に貸与金を返却して（当然の事ではあるけれど）来た航空部に対する，当局や学生部の信頼，それにＯＢ，その他の関係者の粘り強い計画と実行の，賜物とみてよいと思います。

イオラスⅡ世は，一体Ka－６Ｅになるか，“Ｈ３２改良大型”になるか，今秋のみものと，いうわけです。そして，イオラスⅠ世は，ますます健在で，新入部員や，上級生の特訓（シゴキ）に活躍することを，つけ加えるのも蛇足ながら，必要な注意事項でしょう。



「時代の要求－単座競技機－」

北尾直敬

母校のキャンパスにはフレッシュマン達の喜びが満ち，正に春たけなわの今日今頃ですが，ＯＢ各位にはそれぞれ各方面にて御活躍のことと拝察します。日頃は何かと連絡不十分の面も多いかと思いますのでグライディング紙面より，現在の航空部の現状，特に新機体に関し簡単に御知らせ致したく存じます。

さて，３５年度から３９年度卒ＯＢの苦労の賜であるイオラスも八尾，鶉野，岡山，富山，高松と翼を休める暇も惜しむかのように各地に転戦し，その間数々の記録を打立てながら飛行回数実に一万回を数えるに至り，そろそろ寄る年波という感が増してきました。しかしイオラスの老化とは反比例して部員達の技両の伸びはグングン若返り，３年生にして銀章課目の内　高度，時間を達成せしめるという数年前には及びもつかぬこととなりました。これはひとり同志社のみでなく今や学生滑空界の一般的レベル・アップの状態です。そして各校とも更にグライダー・スポーツの真随を極め，少しでも世界の滑空界レベルに追いつくべく，競って新鋭機を求め，技両の向上を図って居ります。既に海外にそれを求めた学校もあります。復座教育による技両向上の伸展度が数年前とは格段の差を見せるに至った昨今，必然的に要求されるのはより性能の良い競技本位の機体，つまり単座競技機ということとなり，日本の滑空界もやっと欧米のグライダースポーツの考え方に一歩近ずいたと云えるでしょう。

そこで我部に於ても，昨年後半より単座競技機は我々も現役もその必要性を当然のことと考え得る喜ばしい状態となり購入計画と本格的に取組んだ次第です。現在具体的に機種は決定していないものの，国産機，外国機併せて４～５機（いずれもスタンダード・クラス）を候補に上げ，目下性能，整備，価格の面等の検討を加えている段階です。

当初，我々の考え方としては，あくまで　日本のグライダー界に少しでも貢献し，外国機に負けないものを国産で生み出す為に国産機の開発をする予定でしたが，日本の滑空界の現状ではメーカーも少く，多額の貴重な金を注ぎ込むには問題あり，最終的に国産機とも外国機も決定しかねている状態です。

いずれにせよ時代の要求に応え，母校の更に一層の飛躍とあくまで世界選手権にも結びつく練習を為し真に学生滑空界の玉座についてグライダースポーツに貢献する為には最低

250万の多額を要し，現役はイララス購入の時と同じく額に汗し，我々も何とかまとまった金額を作り出す為に学校側との交渉等に努力を傾けて居ります。一部OBには毎月積立貯金の形で御協力を載き，又，学校側との交渉等には竹内先輩の側面援助を載いたりしているものの，やはり問題時にこの場合，金銭面が頭痛の種と云えます。

ましてや，二ケ月に一回，地方空港での合宿に所有機材の増加と移動，維持に多額の活動費を予儀なくされ学生の負担も重く購入資金の積立ても思うにまかせぬ現実です。最近ではOB各位の母校の活動に対する関心や，合宿の度毎に数名のOBの御視察を受け，学生の技倆向上に驚かれると同時に航空部の置かれている現実を良く御理解載き，御協力と励ましを得る等，我々にとって誠に心強く感謝に耐えない次第です。

本年度は，航空審議会でも取り上げている如く，グライダーが航空法による国の規制を離れ民間委譲される気配もあり，いよいよ本格的スポーツとして各団体の自主的且つ活発な活動が予想されます。我部としても，常に現在ではなく，明日の，1年先の，むしろ数年先のグライダースポーツのあり方に対処した日頃の活動こそ，OB現役を一つにした同志社大学航空部の今後の姿ではないかと考えます。今後共，合宿OB総会，OB懇親会等を通じ御指導載くと共に更に御理解と御援助を賜り度く紙面を借りて御願い申し上げます。

思　う　こ　と

コーチ　窪　田　昌　三

私が部長より「コーチをやれ」との命を御手紙にて受取ったのが去年の3月10日それに続く学長よりの辞令より1年,早いものである。その間六合宿，富山で迎えた新人達も先の岡山合宿で雛鳥から若鷲とはゆかぬまでも少したくましく育ち，単独飛行に出始めた。

後席助教の訓練を開始した3年生もどうやらその役を果すようになり，この1年間に3年生は殆んどの者がソアリングが出来るようになり，C章はもとより，銀章課目も時間と高度を3名が達成した。又，地方大会，全国大会での各校4年生を相手にして3年生の健斗振りも満足とは云えぬまでも充分なものがあったと思う。

当初，私にコーチなどという大役が勤るだろうかという一種の不安と，引受けた限りは母校の為にという気負いとの入り混じった気持で指導に当ったものだったが，再び新人を

迎えた今は，私は私なりに「自信」とも「信念」ともいうものを確固たるものにすることが出来た。部が成長すると共に，私自身もコーチとしての年輪を確実に刻んだと云えようともかく私がコーチとして曲りなりにも指導に当り１年を経過した今，過ぎ来し１年について，又これから迎える部の今後について，私なりに考えていることをまとめてみる良い機会であろうと思う。

先ず，部活動の一般的なことに関して，諸君は“スポーツ”とは何か？　あるいは又“スポーツマン”とは，又”大学における運動部”での生活とは？そこから“何を得る”か？　これらのことを真剣に考えたことがあるだろうか？　諸君はグライダースポーツという超近代的な“スポーツ”を行っている“スポーツマン”であり航空部という“大学の運動部”に席を置く大学生である。故に一度はこれらの問題について真剣に大学生らしい思考の組立てを行っている筈である。そして各自が自分なりの考え方を持って部活動に，合宿に，大空にと思考を行動に移しているものと思うが，これらの点に関しては許される紙面の枚数上私の意見は次回の合宿中にでも機会を作って諸君とディスカッションの場を持ちたいと思う。

さて，第一に早急に実現せねばならぬは，現在計画推進中の単坐競技機の購入である。今や我々学生滑空界の進歩は一時の油断も許されぬものがあり，他校を圧してゆくには寸時の息抜きもしてはならない。且つ又，現有のイオラス購入以来，４年間フルに活用した効果は現役３年生にして銀章課目を達成する域にまで達し，学生滑空界全般のレベル・アップの趨勢に応じ，同時に我々の練習がそのまゝ学生滑空界のリーダーとして世界の滑空界の実状に即したものとせねばならない。より多くの者にグライダーを通して“空を飛ぶ”という近代的スポーツを普及させ底辺を広げるという時代は遠の昔に過去のものとなり今や，いかに「より長く，より高く，より遠く」グライダーを飛行せしめるかという未知なるものへの挑戦と，あくまで記録本位の本格的スポーツとしてピラミッドの頂点を更に高く，更に大きく積み上げる時代である。本年度の学生選手権大会の競技内容も元来の基本操作に重点を置いたものから，目的地飛行，距離飛行，あるいは獲得高度を争うという方向に進むだろうと云われている。即ち，我々の日頃の練習が，そのまゝ世界選手権へと結びつくものである。又，グライダースポーツというものは使用する機体の性能によって技術の進歩が左右される性格を持つのは宿命とも云える。プライマリーよりはセカンダリーセカンダリーよりはソアラーで練習する方が技術的向上を図れるのは言を待たないところであり，同時にソアラーにしても復座練習用を競技に，記録飛行に使用することはおのず

とその限界を知りつゝ挑戦することになる。今や単坐競技用機体は時代の要求とも云える次に，これは云うを待たぬことであるが，やはり，全国制覇を果さねば日頃の練習中にいくら実績を上げようと苦しい合宿に耐え抜こうと，且つ又優秀な機械の充実を図ろうとも画竜点晴を欠くということになる。我々は一回一回の搭乗に他校との対抗試合での勝利を全国制覇を目指さねばならない。諸君の勝負にのぞんだ時，今一つ欠けているものは云わゆる“勝負根性”である。優勝，あるいは上位に喰い込めるだけの腕を持ちながら，ここ一番という大切な時に日頃の実力を出し切れないのは“勝負根性”の欠除に外ならない。根性も実力の内，技倆を支える大きな要素である。スポーツマンである以上，勝負には勝たねばならない，勝つ為には苦しみに耐えぬく努力の積み重ね，それが根性を養い，実力を貯え，プラスアルファの力となって勝利に結びつくものである。その意味からも本年は諸君の根性作りに精を出す積りである。

最後に，我部もそろそろ距離飛行の研究と練習を開始する時機に来ていると思う。現役中に銀章課目に挑戦し，時間と高度は達成出来る技倆と態勢となった現在，当然次に目指すべきは世界選手権出場資格の最後として残されている50KM飛行を解決せねばならない。距離飛行を本年度の大きな研究テーマとして取り上げてみるのも興味ある。同時に近い将来，必ずや実現出来る否せねばならないことではないだろうか。

思いつくまゝペンを走らせていると次から次へと果さねばならぬ問題の山積しているを知り，同時に航空部の今後への夢が大きく広がり果てるところを知らず，コーチとしての責任の重さを再認識しつゝペンを置く。

最後になってしまったが，新入生諸君，新島先生門下への入学と航空部への入部を心から歓迎し，健斗を期待する。

ＢＯＸに入ると目の前に女性の服が二つかけてあった
よく見ると少し動いている。もっとよく見ると
黒板の中に顔と手足があった
あゝ黒い黒い顔だった。

（大札ね　女性一同）

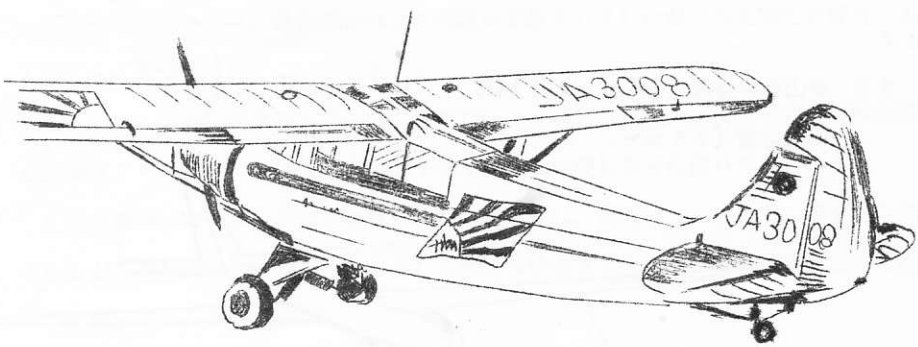
今後のクラブに望む

竹鼻信昭

学生スポーツの未来の花形であるグライダースポーツ。“未来”と云う言葉をあえて附け加えたのは，現在においてグライダースポーツは決して花形では無い。我々の合宿のあの姿を思い浮かべてもわかるだろう。しかし未来においてグライダースポーツは花形と成るであろう。と云うより成らして見せよう。

現状を維持するのみに止まるならば我々は，いや我々の後輩達は永遠にあのみすぼらしい空港コジキに終ってしまう。それではいけないと云う事は誰にでもわかるだろう？ しかし行動に移す事は難しい，しかし我々はやらなければならない，‥‥たとえゆっくりであっても着実に，その一つとして現在進行中の単坐機の購入がある。グライダースポーツの本来の姿を我々は考える事がある。それは決して現状に満足するものではない。我々の未来の姿は既に欧米において現在の姿なのである。3，4年生に成れば皆，単座機で50KM，高度1,000米と記録に挑戦し，その他スピード・レース等その姿は大いに楽しく，たのもしい。日本のグライダー界をリードする学生グライダー界のリーダと成って我々は進もうではないか!! その実現の為には単坐機が是非とも必要と成って来る。これが実現して初めて学生スポーツの花形と成りうる土台が出来上るのである。同志社のみに止まらず日本のグライダースポーツの発展の為に躍進の一端と成り大いなる志をいだいて進む心息が今こそ必要だ。

最後に我々は学生である事を決して忘れてはならない。



昭和４１年度部活動記

'66.

３月　第２回同立戦（１日～６日）　　イオラス・オーバーホール（２７日～　）

４月　イオラス重心測定（３日）　　同耐空検査（５日）

富山単独合宿（１６日～２４日）　ＯＢ懇親会（１５日）

５月　新人歓迎コンパ（１４日）

富山単独合宿（２８日～６月４日）

６月　ＲＦＣ会議（学生会館にて１０日）

７月　祇園祭バイト（７日）　　中免受験合宿（８日～１１日）

第二期霧ケ峰講習会参加（２１日～２６日）

中研合宿（２５日～３１日）

８月　富山単独合宿（３日～７日）　　松本にて文部省講習会参加（３日～１６日）

富山にて支部予選（８日～１１日）

第五期霧ケ峰講習会参加（９日～１４日）

八尾にて支部決勝戦（１３日）

９月　九州小倉にて全国大会（４日～５日）

富山単独合宿（８日～１６日）

１０月　役員交替（２日）　　時代祭バイト（２２日）

中免受験合宿（２６日～　）

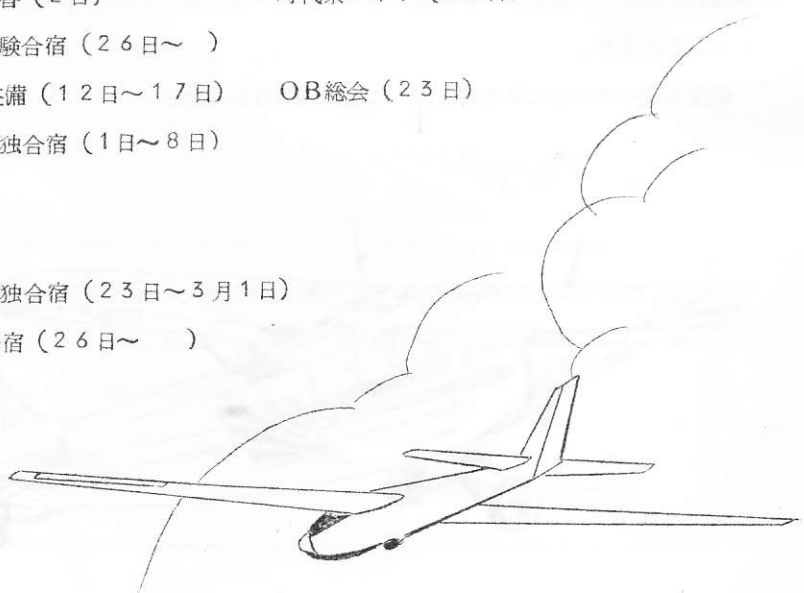
１１月　機体整備（１２日～１７日）　ＯＢ総会（２３日）

１２月　岡山単独合宿（１日～８日）

'67

２月　岡山単独合宿（２３日～３月１日）

中研合宿（２６日～　）



＝ＯＢだより＝

航空部ＯＢ会も，その人員１３０余名にものぼる大世帯となりました。今回，機関誌グライデング発行にあたって，御投稿下さった中から，その一部を，ＯＢだよりとして掲載させていたゞきました。

機関誌発行に際し，各方面に活躍されておられるＯＢの方々から，お便りをいたゞき感謝しております。今回投稿願えなかった方々も，ぜひ一度近況をお伝え下さい。我々現役部員にとって，航空部の輝しい伝統を知り，なおいっそうの発展をきする上に，これほど力づけられるものはありません。

想い起すまゝに……

ＯＢ　三　浦　智　介

「グライディング」編者の原稿依頼により，駄文を呈します。

当グライディング誌（以下グ誌と略す）は，私の現役時代に部誌の発行を決定し，現在ＯＢの田原，田中君等に編集を命じて，創刊したものです。部誌発行の目的は，現役ＯＢとの連絡を密接にし相互理解を深め部の運営に寄与することでした。つまり現在の部誌の目的と全く同一ということです。

グ誌発行に当っては，資金面をはじめ問題が多数ありましたが，部員諸氏の努力によって発行にこぎつけたのを想い起します。

尤も私は，立場上専らハッパをかける方でしたけれども‥‥，後程後輩諸君の声を聞くと矢張りウルサイコワイ主将だったそうです。（私は優しかった積りですがね）

グ誌が創刊以来幾多の困難を克服し，編者が交替し，尚号数は少くとも，回を重ね発展の止るところを知らないのを心強く楽しく感じています。今後共大いに発展充実して行くよう念願して止みません。

航空部の想い出として沢山ある中に，前述のグ誌創刊と共に大きな想い出が一つあります。それは向井ＯＢを筆頭に当時の部員全員一丸となって，新機購入を企画し実行に移したことです。何分その頃は機体を所有している学校は殆んどなかったし（特に関西では），体育会で貰う年間予算は１０万円には遠く離れた金額でした。従ってソアラーを購入する話なんて夢物語に近かったものでした。

無責任な話ですが，新規機体購入の話を出した首脳部の内心はプランが巧く実現に結びつくかどうかは不安そのもので一杯だったのです。然しリーダーが不安な顔では計画は軌道に乗りません。ソアラーがどんなものか何も知らない新人達を前に一席ぶって，新機購入計画を強引に進めました。その話の煙に巻かれた新人の中にいた１人が，現在大活躍している窪田コーチです。ＯＢや学校当局の援助と数年に及ぶ部員諸氏の努力で夢が実現してイオラスとなり現在に至ったのです。

ＯＢ会等の席上で向井ＯＢと私はよく皆様から感謝されます。でも，前述の通りプランを押しつけ卒業してしまったのです。何も大した苦労もなめていないのです。私達以後数年に購入の準備で実際に辛苦をなめて，然もイオラスに乗らずに卒業したＯＢが沢山いるのです。イオラスで練習するようになってから，機体の維持に購入に当る以上の苦労を伴っている筈です。故に私達が特別感謝されるのは，納得の行かないことです。

最近，新機購入の具体案が進行中と聞いております。高性能ソアラーであれ，飛行機であれ早急に実行に着手すべきだと考えます。私も非力乍ら出来る限り協力させて頂きます。先程の新規購入の例の如く，少々の不安や困難は，排除解決されるものです。それが為には筆紙に表現出来ぬ努力と協力が必要なことはいうまでもありません。

航空部に在籍しても，卒業後グライダーの操縦そのものが，実社会でそのまま役立つ訳には参りません。部活動で得た種々の経験，知識が，実社会へ出たとき初めてプラスになってくるものです。

限られた言葉では，説明しても恐らく実感としては把握出来ないでしょう。卒業すればすぐ分ることですが，在部中はわかり難いものです。

大いに部活動をやって下さい。その活動が部の発展にも自己形成にもプラスされるのですから。

最後に，同志社大学航空部の尚一層の雄飛を祈ってペンを置きます。

飛　行　機　野　郎

樺　島　紳一郎

グライディングに寄稿せよと言われても，変りばえのしないサラリーマン生活を送っている小生にとって，これといった話題はありませんが，幸い商売が飛行機屋といった　現役の皆さんに少しは興味のある仕事ですので，小生の近況と合わせ少々書いてみましょう。

飛行機といっても，乗って楽しむのと，これを売ってサービスするのでは，大変な違いで，今更ながらこの複雑な空飛ぶ機械に感心し，かつへきへきしている有様です。勿論飛行機のセールスと言っても小生如き新人の身で，「飛行機はいかがですか」と売り歩くわけにも行かず，目下のところは部品専門のアフターサービス係として歩きまわっています。皆さんは，たかだかセスナと思うでしょうが，セナスに何種類あるか御存知ですか。あの高翼の似たりよったりの飛行機に実に２０種類似上もあるのです。この中，日本に輸入されているのが約１５種，１００機似上にのぼります。これらの部品は合わせて数万点，エンジン部品を含めば，気の遠くなるような数で，これが7桁の数字でびっしりとリストに書かれているのは壮観でさえあります。セールスマンとしては，２０数種の飛行機の性能を憶えることも大事ですが，これらの部品のうち常に消耗する部品などの部品番号や，価格を出来る丈頭に入れて，お客にサービスする訳で，脳ミソのしわの少ない小生にとっては，誠に涙ぐましい努力を要します。更にこれらの部品はすべて輸入品ですから，輸入関係の書類上の仕事も加わり，また使用者からの技術的質問はすぐアメリカに問合せなければなりません。こんな訳で，一機の飛行機が完全に運航するには表面からは見えない苦労がかかっています。皆さんも夢々軽んじてイオラスに乗るべからずです。

こんな風に色々苦労の多い仕事ですが，そこは自称飛行機マニアの小生ですので，愉快な事も度々あります。学生時代もよく飛行場へ行き，一日飛行機を眺めて楽しんだものですが，今となっては毎日飛行場へ通うので，色々珍らしい飛行機に出会う機会もあり，セナスに限れば飛べる事も出来るのが何と言ってもありがたい事です。この５月にはセナス３３７型といって世界でも珍らしい双胴高翼，引込脚の双発機にアメリカ人のパイロット（フェリー飛行専門の運び屋で軍隊時代はＢ－４７のキャプテンだったそうですが）と東京－大阪を飛ぶことが出来ましたが，これなども飛行機屋の余録といったところでしょう。

日本でも最近軽飛行機ブームなどと新聞やテレビで盛んに言いだしましたが何といって

も，日本ではまだまだ自動車止りの様です。アメリカでは例えばセスナ社だけでも年間7000～8000機生産しており，これにパイパー，ビーチ其の他の会社を合せると数万の飛行機が生産され，しかもどんどん売れているのですから我々から見ると全く桁が違いうらやましい限りです。日本に於ても将来，皆さんの様な学生島人がどんどん出て，航空人の層が厚くなり本当の飛行機ブームが到来する可能性なきにしもあらず，我々セールスマン一同，おゝいに皆さんに期待しています。

色々勝手なことを書きならべましたが，今後微力ながら日本の航空界の発展に尽くすつもりで頑張っています。皆さんも航空界の人間として，同志社大学航空部の部員としてお，いに奮闘されんことを祈ります。

ＯＢ／年生の懐古

山　田　裕　章

現役時代の華やかなりし頃を思い浮かべてみました。

体育会と名の付く航空部に入部した時から大会に出られる日を待ち遠しく，しかし，慎重に心を静めてその日を待ちました。勿論自信があってそんな風に考えた訳ではありません。自分の実力がどこまで伸びてるか試してみたいそして自分がどこまで他の人達に迫れるかという興味からも来ていました。半面，正直なところ俺みたいな下手なのが大会に出るなんて空恐ろしいというような気持もありました。だけど，私にはすでに選手経験はあった。中学の３年間をサッカー部で過ごし，３年の時にはライトウィングで出場し，郡の大会で優勝そして県大会では準決勝で惜しくも敗退。又，その間学校を代表して駅伝マラソンにも出場しました。この選手経験は私の最も心強しとするところでした。

勿論，もともと彼は勘の悪い方ではなかったので，グライダーに乗っても人並にやれるのではないかと予想されました。ところが，予想はくつがえされました。航空部入部似来１年間は全く下手で自分で自分が嫌になる程でした。しかし，２年の夏に中免を取った頃から少しずつグライダーに慣れて，グライディングからソアリングを味わうようになれました。というのも秀れた先輩達が居たということと先輩達の先見の明で，H23Cが我校

に購入されたおかげでした。２３Ｃで合宿毎に２０分から３０分位の滞空を経験すると共に一進一退でしたが，少しずつ力をつけて行きました。それは彼がツイていたということも多分にあった。おそらく彼の日頃の行ないが良かったのだろうと思いますが‥‥又，幸運な事に，彼の同僚に優秀なのがいました。田地川君を始めとして岩崎，田中君等良き競争相手が同志社に居たのです。勿論，当時他校にも優秀なグライダーマンが目白押しでした。彼もうかうかできなかったのは当然です。良き同僚に恵まれ良き好敵手に恵まれた時，彼はやる気十分でした。彼も決して努力を怠っていた訳ではありません。その証拠に彼は自分の参加する合宿が迫ると彼なりに勘を取り戻すべく研究していたし，体調を整えていましたから‥‥では，彼の待ち望んだ大会はどうだったでしょう。彼が３年の時初めて第１４回大会の支部予選に出ました。どうなることかとても不安でしたが，指定地内で大きくバウンドしたものの１位大久保（阪大）　２位田中（同志社）に次いで３位に入れました。これでひと先ず良し。全国大会では自分の実力を出しきろうとただそれだけを胸に富山合宿に参加しました。富山合宿後に全国大会を控えています。その意味で富山合宿は重大でした。さいわい教官は窪田先輩と山田正勝さんでした。とにかくこの富山合宿が彼に全国大会への総仕上をやってくれました。実に，この合宿で彼は１２回のソロに出たのです。ソロに出る時，窪田教官はこう教えました。「いいか，全国大会のつもりで飛べ」彼の心は引き締まりました。彼は後にこう述べています。「訓練中は，手厳しい窪田教官に憎しみさえも覚えました。しかし，きびしい訓練のおかげで指定地に入る自信もできましたし，上昇，Ｓ字旋回等もマスターすることができ，それ故に２位に入ることができた。」と。事実彼は全競技を通じて一度も指定地を外したことはなかった。

第１４回大会は第１６回大会と同じ九州小倉空港にて行なわれました。関西・東海勢を代表した選手団１０名は打倒関東を目指し必勝を期していました。しかし，実力では決して劣るとは思われなかったのに関西・東海勢は一部，二部共，関東勢の前に涙を呑みました。何故だろう。何故負けたのか。その疑問に北尾教官は答えてくれました。「関西東海勢は根性が足りない。」その一言が我々に結論を与えてくれました。負けた時，選手達もさることながら北尾教官の無念そうな顔は痛々しい程でした。よし，根性を身に付けようそして我々が４年になった年こそ先輩達の借りを返そう。打倒関東こそ我々関西・東海勢の合言葉でもありました。それから，１年全国大会１本槍の練習が始まったのです。南村主事を筆頭に立って，関西への選手権奪回に一丸となった。北尾，八木両教官も口を酢っぱくして我々の練習を励ましました。

彼は心の中で思いました。「是非，何が何でも期待に応えねばならない。」しかし，第１５回大会までの道のりは遠い。同僚の田地川，田中，岩崎そして関西には大久保（阪大）日野上，水田（立命）　東海には各務（愛知学院），　岡（名城）等少しも油断のならない強者達がひしめいていたからです。彼等強豪と混って５人の中に入らなければ１５回大会には出られない。しかし，全く残念なことに，４年生であった為に就職試験と重なって予選に出られない人達が出たことです。ともあれ，決勝では日野上君に次いで２位に，そして３位には大久保君が入りました。よし決った。この３人のうちの誰かが選手権を持って帰ろうと誓い合いました。彼は心の隅っこの方で考えたそうです。「他の者が駄目なら俺が持って帰る」と。

第１５回大会は名古屋小牧空港で行われました。とてつもなく大きな飛行場で，誘導路で競技が始められました。彼は思いました。今こそビシッと決めよう。完璧の飛行を心がけました。そして，彼自身実力を９分通り出せたと思ったのです。２回の飛行が終った時，ひよっとしたら優勝か。優勝したら新聞記者からインタビューがある。何んと答えたらいいんだろう。などと早くもそんな心配をしていました。優勝は大久保君でした。同じ関西から選手権者が出たのです。実に２６年ぶりに関西へ優勝が来たのです。良かった。本当に良かった。彼は心から大久保君に感謝したのです。我々の責任は果せたと思ったのでしょう。２位で彼は満足したのです。

以上ＯＢとなった強みで自画自賛好きな事を書いてしまいました。

ところで，話は変りますが，現役の諸君達の技量が大幅に向上したと聞いております。我々が現役の頃でさえ，２３Ｃに代る高性能グライダーそれも距離飛行の狙える機体が欲しいと思いました。是非現役達にＨ３２でも良いし，とにかくいい機体に乗せてやりたい気持です。彼等はきっと立派に乗りこなして，我々ＯＢ連中を驚かすに違いありません。

同志社式人力ヒコーキ“ラケット”

合　宿　報　告

全国大会に出場して

－栄光への脱出－

鬼頭章浩

いつの間にか一面に降り積った雪に京都は見違える程美しいこの季節に夏の日のあの全国大会を思い出してみてもどうも感覚的にぴんとこない。つまりなんとなくしっくりしない。それは大会では少なくとも入賞するべきであり，又そう自分で決めていたにもかかわらず，たぎりたつ我闘魂は荒涼たる飛行場跡に吹きすさぶあのみぞれまじりの雪のように冷たく寂漠とした現実とは相入れないものだったからかもしれない。

全国大会，その選抜としての関西支部予選，更にその選抜として支部決勝戦，そしてそれらの為の強化合宿と日頃の訓練，このピラミッドの頂点で月桂冠を戴く瞬間に向って自らを励まし自らに向かって挑戦する選手にとって敗北を単なる敗北に終らせることが出来ないのは自らの全てを注いだ自分に敗れたことを信じたくないからであり，そのしっくりしない空しさは鉛色の冬空を仰ぎながら灼熱の夏空を思う感覚的な違和感さえも感じさせるからであろう。

そしてあれこれ考えてみる。人は無意識の内にも自分の限界を知っているものなのか，ということは自らの能力を自ら決定し自分の技倆水準を位置付けてしまっている。つまり少なくともその程度までの自分の技倆は信じているのに違いない。事実はともかくとして。そして競技会という未知の世界で自分の信じている技倆がどの程度発揮されたのか，それなりの自分の評価とはおかまいなしに結果は相対的な位置付けによって今まで自分の信じてきた技倆とを同一視することを強いる。

ところが人間なんて勝手なもので上位を占めた場合にはそれを技倆と結びつけ，比較的容易に信じてしまう。逆に自らの信ずる技倆を最大限に発揮すべく飛んだにもかかわらず

自分の意図と評価が一致しない場合にはその現実をそう容易には承認出来ないのも自らの技倆を信じているからである。だから競技会においては自ら認識する可能性を信じていることは非常に大切なことと思う。つまり予想外の好成績であっても，言いかえれば自ら信ずる技倆水準を上廻わった場合も，高慢と油断からの技倆停滞に陥ることを防ぎ，予想外の不成績であっても，言いかえれば自ら信ずる技倆水準を下廻わった場合も，それを「信じていることにより，自らの敗北などありえず，再び技倆向上という「事実」が現れるからである。極言すれば，競技会においては特に最近の社会的風潮のレッテル偏重主義的な見方をされ易い全国大会などに於いての成績は良きにつけ，悪きにつけ決してそれを自らの技倆と信じてはいけないということである。絶え間なき技倆向上という事実の為に!!
それにグライダーは限りなきスポーツでもあるから‥‥。

それでこそその結果として競技会において特にその頂点たる全国大会においてその成果を成果としてそれなりに認めることが出来るものである!!

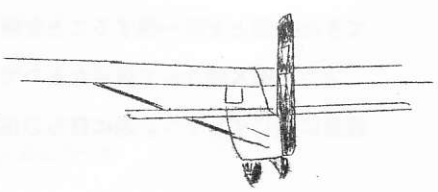
これはちよっと矛盾に思われる向きもあるかもしれないが決してそうではない。全国大会という強豪の中で収めたその成果はあくまで成果なのであって謙虚にそれを認めるべきであるがそれを自らの信ずる技倆と結びつけてはいけないということであってそれでこそ高慢と自信喪失を防ぎ技倆向上という事実が再び全国大会という場で成果となって現われるのではあるまいか。

全国大会に出場して感じるいま一つは技倆に安定性が要求されることである。

飛び終って満足のゆく飛行ならともかく自分なりに信じている技倆にもかかわらず滅多にやったことのない落着あるいは指定地外着陸などをすればしっくりしないものを感じるのも当然であるがこれも技量内だと言っても過言ではあるまい。百回に一度のミスも大会では通用しないのであり，まして航空機という，大自然の中で大空を飛行する性質上一度のミスは致命的なものでさえある。自ら操縦桿を握るパイロットにとってこの認識こそ第一のものであり，グライダー競技において一度のミスは敗北を意味しそれが自らの技倆と看做されても仕方がないのである。

安定した技倆を身につけることと「日頃の行い」こそ最大の武器であるに違いない。

そして自らの技量に対する自信のレベルアップに努力することが肝要なのではなかろうか‥‥‥。



銀章科目を獲得して

竹　鼻　信　昭

やっと成し遂げた。と云うより，こんなに早く取れるとは思えなかった。確かに可能性はあったし，誰か取るだろうと思っていたが窪田コーチから「もし明日風が吹けばお前が行け。」と云われるまで，自分が直接５時間に関係するとは思っていなかった。合宿に行く前日，母に「今度は５時間飛んで来る。」とは云ったが冗談半分だった。こんな状態ではあったが，銀章をとった現在本当によかったと思うし，今までの努力の結果がここに現われたのだとも思う。そして又，これからも多くの同胞達がこの後につづいて呉れる事を望んでいる。しかし銀章を取ったからと云って手放しで喜んではいけない，我々の目標は記録ではなく，あくまでも前向きな，より高度な技術の収得であり，尽きる事のない前進であると思う。そうすれば記録はその産物として自然に与えられる。別に記録をねらう事を云々するのではない。けれど，記録，々々と色めき立つ前に，自分自身にそれだけの技量があるかを考えてほしい，そして自分は自分なりに，より高度な技量の収得への努力を，おしまなければ自然に与えられるものだと思う。その時，あの自然が与えてくれた認定章を誇りにすればよい。そして又前進すればよい。

“老朽には何のトリックもない，私はたゞ如何なるときにも，私に与えられた仕事に全力を尽くしてきただけだ。正直のところふつうの人達よりほんのちよっとだけより良心的に努力して来ただけだ。”

～～～カーネギ～～～

ある男の朝　朝８時半にとび起きる。おもむろに十円玉を取り出し，ほうり投げて「表が出たらパチンコ屋へ　裏が出たら　そのまま寝る　立ったら大学へ行く」というような規律正しい生活を送っている。
彼の専攻は球体力学であるが，将来は，その抜群の指力（視力ではありません）を活して，ビルの地下でインストゥルメントの前に立ち，スイッチマンになる事を夢みている。

例　史

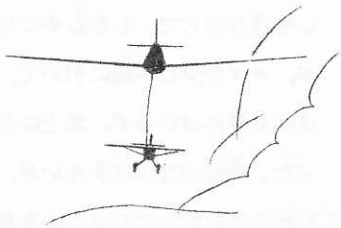
初　ソ　ロ　記

箕　浦　健　二

11月6日　この合宿も今日で最終日。ことによるとこれで今年のフライトも最後になるかもしれない‥‥状況も良いとは言えないし‥‥とにかく悔いのない一発を仕上げて富山を去ろうと，記録ノートのまとめを必死で頭にたゝき込んでいた。練習開始，二発程飛んでから機体点検を命じられ，搭乗順がまわってきた。内部点検を終え，マイクをセット帽子をかぶり直して出発を待つ。「出発ノ」……この飛行は前半は，まずまずの出来で持病の旋回中の外滑りも殆んどなかったが，第3からガタガタだった。チェックポイントのあたりから沈下が大きく，かなりの風がピストから第3に向かって吹いていた。そこにもってきて第3をいつもより遅らせた（というのは，いつも少し早くて進入が忙がしかったから）ために，第3から直接ピストへノーズを向けて‥‥という仕末。“エライコトシタ”と内心ガックリ。そういえば漢の前,名城の地村君もこんな進入をしていたっけ。その時，ああなったら大変だなァ，と思っていたのにまんまと引っかかちまった‥‥。とにかく残された進入，接地はなんとかこなした。接地寸前のダイブの使い方がまずくて少々ドン着気味だったが。“畜生，情ないなァ”と思い乍ら報告を終えて講評を聞き，索の点検に移ろうとしたときだった。バインダーから視線を外した山田教官が，「おーい，箕浦ァもう一回飛べよ。」と，一瞬“教官殿，今日はいやにサービスいいネ”などと今考えると実に妙なことを考え乍ら，もう既に縛帯を装着している神田君に降りてもらって再び乗り込んだ。と，山田教官がグライダーを降りられるではないか。アア，永い間夢みて来た事が今現実となって訪ずれるんだナァ‥‥しかし実感というよりもむしろ自らを力づけるためにそう言い聞かせた。風防をロックすると，『もう誰も乗ってこられないんだゾー』と少しいい気分だった。点検を終わりタブをセット，一要前方をにらみつけてから左手を上げて班長へ準備よしの合図，いよいよ機体は滑り始めた。地滑，比較的短い地滑の後，機体はすぐ浮上した。ゆるやかに上昇姿勢に入れた。流されるな‥‥もう誰も修正してくれないんだぞ‥‥‥。曳航車の調子があまり良くなく，途中索がたるみかけたが，すぐ改復して，離脱は場周がし易い様に三百米で押さえた。離脱の報告を済ませ。Vをセットしようとするが，やはり一人のためVが定まりにくい。とにかくややおさえ気味に第一旋回，Vが切れない様特に注意し乍ら，そして“バンク”“速度”“ボール”と。第二旋回は少

し早目の感じで，しかしやはりここでも頭が上がり加減である。そこで旋回中ではあったが，タブを少し手前に引いて，操縦桿をおとなしくさせた。実に静かだった。風の音似外は何も耳にはいらず，地上に点在する家屋も，森も川も，常よりさらにファンタジックだった。比較的沈下は少ないが，風が強いから，コースを広げないように。ここで何かミスしたら俺は死んでしまうかも知れないんだなあ，とフッと考えたりしました。チエックポイントの少し手前に来たときだった。例の叫び「教官の○○××。」しかし実際には言えなかった。山田教官に対して○○××など，とんでもないおはなし‥‥ゴマスリじやなくてホントウ‥‥。勿論その時はそこまで考える余裕はなかったが。チエックポイントのあたりで，下から山田教官の声が，「右へ360°旋回」とかかってきた。沈下が少なかったからなあ‥‥と思い乍ら了解を連絡して右旋回に入れた。今までの360°旋回ではバンクが非常に浅かったため，なかなか回りきらなかったので，もう少しバンクを深くしてやろうと初動を少し大きく入れたのだが，やはりなれない事はしない方が無難だと思い直していつものバンクにもどした。後で何か言われるかなと思いつつボールとVを特に気にしながら‥‥(果して，報告が終わってから360°のバンクが最初きつかったゾ，と言われたが‥‥)360°旋回は，ええと，また元の方向に向けるんだナ，などふとどきなことを考えて‥。360°を終わり，ランウェイを見ると，やはり少し流された感じである。吹き流しに目をやると，吹いてる吹いてる丁度ピストから第3の方向に，出発の時より，かなり強くなって，吹き流しのシッポがもう少しで振り始めるんじやないか，これは余程第3を注意しないと大変だゾ，バリオもさっきからマイナス1.6前後だし，と思っていると，ピストから今度は指定地変更の連絡がきた。ピスト前の白い大きな長方形のマークが指定地だと。やれやれ，相当オーバーの積りど進入してもいいなと安心し乍ら，実はここで誰にも発表してない面白い恥かしい光景を演じた。御想像にお任せ‥‥。とにかく第3は早く回って第4へたっぷり偏流をとり，風に負けない様に気を配った。Vは80である。第4は強烈な偏流のため，アッという間に終了し，そのまま軽く偏流をとって進入した。ダイグは半開。この時全く我を忘れる。そして接地，変更された指定地より若干ショートだった残念だったが進入接地はまずまずの出来だったし，と自分を慰めて‥‥。機体は停止した。ノーズは名城の神田君がおさえに来てくれた。風防ごしに彼のいかつい顔が祝福の笑顔を送ってくれている。3日前に彼が初ソロに出てから，密かにファイトを燃やしていた僕だった。時に11月6日，午前7時41分から45分の事である。

随　　想



小さな鳥人の想い

桐山　　隆

幼年時代から夢を見る事は想像の世界を飛び回る自分であった。その時から空を想う心を養なわれた。大空を見ては，雲雀にあこがれたり，雲に寝そべったり，月旅行，星に対する未知なる期待を通して，心を大空に駆けまわした。そして翼が欲しくてたまらなかった。その時，絶対パイロットになる事に決めた。でも生徒時代には大空に目をむけず大地の自然にあこがれた。野，山を歩き，海に恋したり，ごく普通の人間となった。

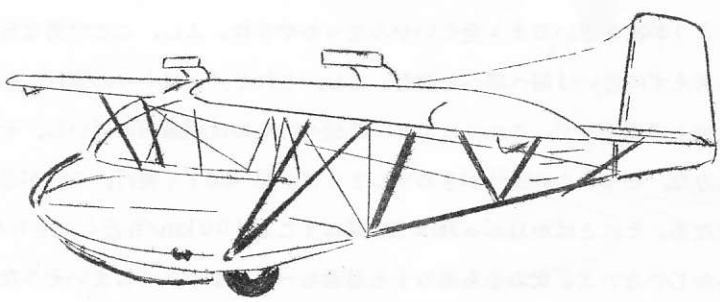
しかし，本格的にスポーツをもやり，雪にとりくみ，高校はスキーをやった。そして自然の偉大さとおそろしさも，ある程度知りました。そして，大学で大空に駆ける事をするクラブに入部する機会を得たのである。スポーツマンとして，そして空を愛する部“航空部”を知った。それ以来もう４年たち卒業を目前にひかえる航空部の老鳥となったのである。現役として最も経験あるものとして老鳥と書いたが，役目の終った抜けがらだと思う。しかしながら，出来る限り，クラブに役立ちたいと願うのも今である。幹部時代は忙がしさのあまり交代後の自分を想像してなかった。しかしクラブにおいて老婆心ながら，振りかえってなつかしがる自分である。その中で想い出の一つである。第１６回全日本学生グライダー競技選手権大会について書くと，結果は第４位であり，何んでもない成績であった競技生活，高校以来６年間１度も優勝出来なかった。でも，これが今迄の最高級の成績である。全関西では第２位であるが，これも規模は小さく成績を云うのは全日本だけであるこの大会に臨むまでに２回競技会に失敗して，これが通算５回目のグライダー大会であったから，以前の苦い経験だけは，しないと心に誓った。

そして，先輩の意見とか全て，この大会の準備にむけた。心の準備，体力の整え，今迄の飛行技術の欠点を示したノート整理等をして小倉の地にむかった。

そして，第４位と結果が出た。即ち敗けたのである。優勝似外勝ちはないのに出来なかったのである。確かに全国から選抜された連中に勝つ事は容易ではない。しかし今から考

えると何んとか出来たと思う，競技には総合力の勝利が栄光に結びつくのである。即ち，技倆と環境と機会である。我がクラブにおいて今の競技では，機材は同志社と同じであり先輩にも良き人ばかり，そして伝統もあり，何一つ不足はなかった。結果の出た今では自分の努力が不足で，完全ではなかった。だから，敗けたのである。確かに技倆もなかったかも知れないが，もう少しなんとかなったであろう。即ち飛行自体をもっと慎重に研究しながら練習していたら良いのであるいとも簡単なそして難かしい事をおろそかにしていた事，次の大会まで期間があるから選手となる鳥人は日常の自分を磨きかけねば遅いという事を身に刻みつけてほしい。栄光の選手権のトロフィーはまぐれでは絶対我らの手に納められない。出来なかった者が，いくら叫んでも仕方がないが，実感として君らに伝えたい。スポーツに勝つ事を目標にしながら選手生活を送った。でも達成出来なかった現在違った満足感を覚える勝利を目標にしながら自分のスポーツをやりとげたと云う事，そして己の心をいかに統制し信頼する事。

人間関係の難しさと，その喜び。友人を持てた事は，クラブを通して重要な意義であったと思う。そして自分はスポーツマンであると自覚出来た事，素晴らしき学生生活であった。この様に育ててくれた同志社航空部に栄光あれと願う。又，そこに所属する多くの若き翼を持つ鳥人よ。伝統を築いた先達の航跡を消すな，そして君達でもっと広く大きな航跡をつけていってくれ。日進月歩する航空界に於いて我部のあり方を考えてくれ。毎年，若鳥を向えて４年の老鳥を追い出す１年の暦であるが，大空に対する希望はＯＢも現役も変らずいつまでも心のつながりとなるクラブであってくれ。ただ単なる時の流れに従がっているのでなく，そこにクラブに対する部員の意思が，しっかりと結びつけられる様なクラブ。それでいて今後はもっと積極的に課題を見つけ，解決し，前進していき暖かき人間の付き合い，磨き合う心の部員で満ちるクラブになり航空界における真のスポーツマンとなる事を期待する。（桐山前キャプテンが，卒業される迄に発行出来ず残念でした――部誌係）



暗闇忍法一足飛び

木村　保

お正月も早や過ぎること１７日，目前に学年末試験がいやおなしに迫って来る。大変だ大変だ，勉強しなくてはいけないと思うと，どことなく憂うつになり，ここ数日間のすいみん不足と重なって，頭がぼんやりし，目ぶたがすうっとカーテンを閉じる。今日は眠いんだし，あゝもう寝ましよう寝ましようと思って，やぐらコタツの中へ，もぞもぞともぐり込む。すうっと意識が薄れかけたと思ったら何やら十大な事が思い浮かぶ。あゝ，そうだ！　明日は部誌に載せる原稿を出さなくてはならない……。こんな時に困るなあ，チッ面白くない。まぶたに部誌係りの親方が「又，又書いて来ないな」と怒る顔がチラホラと右から左へ，上から下へと往来する。後で直接に持って行けばなんとかなるさと自分勝手な事を想像してみるとどことなく何だか自分が大きな誇るべきものの様に思われ，大きな気持に成っていつしかコタツの中でスヤスヤ……。

「おい，今日はいい風が吹いている。天気図は等圧線が日本列島に垂直に立っているし，大陸の高気圧はどんどん発達しているしこんないい日は又とこないぞ」とどこやらで声がする。あれ！と思っていると，どうやら小生，岡山へ合宿にやって来てるんだそうだ。しかも嬉しいじゃないか，本日は私よりの搭乗順位なり，待ってましたとばかり，１９７０年型の最新式タービンエンジンの強力車に曳航されて機はあっという間に高度８００米まで上昇，離脱するやすぐさま，さっと金華山の上空へ，この強い風の事，あるはあるは，居眠りしてもバリオメーターがぐんぐん上る。しめしめと思って，ここで慎重にやらなくちゃと思い，眠い目を少しこすると，どうも海岸と湖の真中ぐらいで巨大なテルミックがあるそうなり。それいけとばかりバンク60°でセンタリングギリギリ，上ること上ること面白いほど上る。たちまちのうちに高度は1000，2000，3000と上る。おゝ寒い，キャノピーが曇り，操縦桿がアイスィングのため重く成る。とくに地上との無線連絡はなし。何をしようが我が思いのまゝ全くいやんなっちやうね。よし，ここで男ならとばかり，後の事も考えずに思いは前へ前へと進む。よし，これだ！とばかりに実行にかかったが，中国山脈越えで米子まで，これにしよう。高松へ行くのは距離的に近いし，それに海は冷めたいものな，せっかくの眠りがさめてしまうよ。思へばすぐ実行，これが忍者のいいとこなんだなあ。それとばかりぶっ飛ばす。飛ばすこと100km／h近く，もちろん昔の２３－Ｃなんかじやないよ。女の子も男の子も忍者も一目でまいってしまいそうなすばらしい機

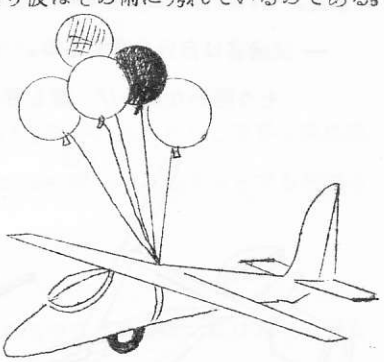
体だ。わけない。途中ですいすいと上昇気流をSOARINGしてたと思ったら，もう大山の頂上付近，地上にいつまでもへばりつくのはやめて危険の多い冬山登山じやなしに冬空登山とまいりましようや。

おゝやってるやってるスキーか，ちよっくら見学でもして行くかな。これから米子までは山なしの平地，見通しもきくし，不時着地はわんさと有るから，急降下爆撃ならぬ忍法急降下ダウンで，色とりどりのアノラックを着たかわい子ちやんをあっと驚かす。ふっ見ろ，見ろ，そしてびっくりしろ。こちらの方がうんと楽しい事してんだからな。さて，まだまだ日暮には早いし，ちよっぴり隠岐の島見物にでも出かけようかな。と思っているうちに，ヂーン　目覚ましのしやくなこと。目が覚まされると肩から背中がしびれる。背もたれにのり上ってねてたしだいだ，当然の成りゆき。あーあ，まだぼんやりしている。このまゝ続けば米子空港へ堂々と着陸，大騒ぎに成るところだったのにな。まあいゝや。けっこう楽しかったから，しかし，やっぱり原稿は書かなくてはいけないな，思い直してペンで走り書きと相成り候。ところで部員諸君試験が終ったらすぐ春が来ます。春が来たら新人部員が入ってきます。今年は何が何でもわんさと入部願って，ごっそりお金を貯える事にしようではありませんか。大空をすいすい飛び回る単座機にみんなで早くのりましよう。

それでは同志社航空部ガンバレを持ちましてくだらないお話しの終結としたいと思います。

— 編 集 部 註 —

そもそも忍法とは，自己防衛の一手段であったのであるが，やがて発展し攻撃の一手段となったのである。この作者は本来色が黒く太陽の子と言われる位である。この身体的天性を忍法に利用したのが暗闇忍法である。これは，自分に不都合なことが起った場合に闇を利用して自ら存在を気づかせぬようにする方法であり彼はその術に秀れているのである。なお戸籍上では作者は本村保と名のっているらしい。



試験官は自分自身である

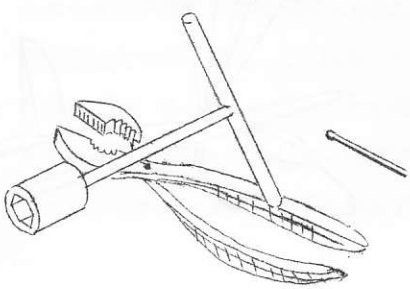
「今年の全国大会では同志社は完敗だ」と云う言葉を僕はどこかで耳にした事があった本当に同志社は完敗したのだろうか。

一体「敗北」とは何なのだろうか？　皆で考えて見ようと思う。勝敗は順位で決められる。2位は1位より下位である。しかし2位は1位に負けたのではない。彼は自分自身に負けたのだ‥‥いや負けていないかも知れない。彼は全国大会を目指して，その日に全力をつくすように努力しているはずである。しかしこれも他人の目でしかない。他人から見てそう思えても，彼自身が「精一杯やって来た」と大声で叫べるだろうか？　もし彼が「この日にそなえて俺は今日まで精一杯やって来た。1位になっても当然の力を持って来た。」と大声で叫ぶ事が出来たとしよう。しかし彼は2位に成ってしまった。

そこで彼は落胆するだろうか，悲しむだろか‥‥。彼は満足だったろうと思う。そして一位に成った者を自分より優秀な者として心より祝福出来るだだろう。「試合には負けたが自分には勝つ事が出来た」と誇れるだろう。もし彼がそこで腹を立てるなら，それは彼自身が今までの練習に満足出来なかったからで有り，勉強不足だったからなので自分自身に腹が立つのである。1位の者をうらむ為では無いはずだ。彼が『俺は精一杯やっていなかった』と思ったとしよう。当然彼は1位にはなれないだろう，その事は彼自身が知っていたはずだ，と云うよる知るべきだ。勝敗は試合まですでに決まっているのである。結果はたゞそれを文字にしただけである。自分自身に勝つた者が勝利者と成るのである。その意味で同志社は完敗したのかも知れない!!　もし貴方が全国大会で1位に成りたいと思うならば競争相手をマークする前にまず自分に忠実に正直に練習し，自分自身に尋ねて見る事だ。それに合格して初めて貴方に1位に成る資格が与えられる。

— 試験官は自分自身である。 —

そう思わないか!!　君も考えて見たら‥‥。



紫陽花随想

徳永和子

冬

もの狂おしい程のあかるい月。10月もなかばをすぎ，11月への季節の推移が，まざまざと月の表の紋様を織りなしはじめ，空気は自らのうちに棘(とげ)を含み，朝焼けの陽光を固定しようとする。

不思議な時期は秋から冬。こんなにうつろなものだったのだろうか。時の流れは無常で人の心がうつろい易い，という事は百も承知，いえ，悟った様なものだったのに，感覚だけが，冴えざえと冷えわたり，自己が没してしまったかの様なたよりなさ，と同時に，りんごの樹の白い樹影が，冬の信州での思い出と共に，なぜか胸が痛くなる程恋しく想われるのである。

倉が岳の夕焼け。土地の人も見るのは稀(まれ)で，10年に1度といわれている。この鋭い鮮紅色にいろどられた凄艶(せいえん)な南アルプスの一かく。あの日，それは心臓からしぼりだした血液の，最後のしたたりにも似た美しさをもっていた。白銀の世界に疲れ切った目には，その紅さが，信じられなかった。あたかもイエス・キリストの贖罪(あがない)の血潮の様に。

1年たった。季節はうつり，そして又冬

水俣の春

春になると，こさきの上流には，ねこやなぎの芽がふくらむ。暗紅色のつばきの花が甘いみつの香を漂(かただよ)わせる小道をたどり，流れにさからって(さかのぼ)，ゆるゆると川を遡っていくと，突然，どうどうと白いひらめきが，さかまき，うずまき，泡立ち，全てを流しつくそうとするかの様に激しく流れる。

風は冷たい。

菜の花にはまだ早いが，イヌフグリのうす青い悲しげな花が，ちろちろと早春の風に揺れているのが，あちこちに群れ咲いている。うたかたの様に崩(もろ)い花。ちよっとでも触れると，ホロリと落花してしまうのだ。

河原におりる。

ごろごろした岩の間に，白く光るにこ毛に覆(おお)われたねこやなぎの芽に，私は毎年の春を

見る。それは，冬の終りと共に，その１年間の逝った夏・秋・冬への挽歌である。

祭

故郷（ふるさと）の七夕は，一種のなぞめいた様式であった。少くとも，幼時の私にとっては。

大人の方が多い家族が輪になり，手箱の中から取り出した様々の色紙を折りそろえ，切る。全てのうごきは，ほとんど無言のうちに行なわれていた様に思う。

あい色の空に，さやさや，さらさら，とひそやかな衣（きぬ）ずれの音にも似た葉のそよぎをみせた笹，天の川などと書かれた短冊（たんざく）の，悲しいまでに沈潜した墨（すみ）の色と，この時の沈黙が私にとっての七夕の象徴である。

紫陽花色（あじさいいろ）

あじさい色の空の呪縛（じゅばく）は私を捕えてなおやまぬ。嵐（あらし）のおこるきざしの一つ。不吉な色なのである。あじさい色にひきつけられるのは，何にもまして，その色彩が，私にとっての死の象徴ともいえるものだがら。その不吉さゆえに，私の本能のどこかを，かたく捕えて離さないのだ。夏から秋にかけての，あの人を魅（み）する様な碧（あお）さとも異（こと）なる，短い期間のあじさい色

その中には，凶兆（きょうちょう）となるべきオレンジの太陽はない。が，あじさい色をした空を見ると常に狂おしい気持ちにおおわれてしまうのは否（いな）めない。あじさい色は，本能の奥そこで眠りをむさぼっていたものを呼びおこすのである。あじさい色の空に，オレンジの太陽がのぼるその時，私の血液は沸騰（ふっとう）し，幼時の記憶が流星の様に脳裏をかけめぐる。私の幼時からの回想は，全て死を無意識のうちに容認し，その中で生の火花を空しく散らすことに始まる。

生と死が常にとなりあわせであることを，朧（おぼ）げながら本能の導くまゝに察知し，恐れ，なおかつ求めてやまぬ自分の，この生きる事は何なのだろう。この疑問には，常に答えはなかった。答えを出したくなかったのが本当かもしれない。かすかにも　　にうかびあがってくるのは，正視に耐えぬ，ちっぽけな自分ではとうてい耐え得ない，しかし，憧（あこが）れ，待ちこがれてやまぬ死。

これを常に伴（とも）っていながらも，私を生きる事に駆り立てたのは，何だったのだろう。予感に捕われる事のない「幸福な年代」というものが，あったはずであった。が，私にとって，常に幼時の記憶は，死を容認していた様に思える。

孤　独　の　叫　び

小野田　　勇

俺は夢想家であると思う。想い出とは尊いものである。想い出は清いものであらねばならないであろう。かつ想い出は涙するものであってはならないのではないか。

思えば1年半前であろうか，先輩につれられて初めて合宿とやらを体験した時が昨日の様に流れてくるのも不思議なことだ。高松への船上で一見旅行気分ともなりかねないはやる気分を押えて，疲れるからという先輩嬢のありがたきかな御教えに従い軽く目をとじて，又，真近にせまる不安と期待とに悩まされながらも一夜を明かし，2年ぶりの四国上陸を自己誇張しながら空港への車に乗りこんだ時，俺の心には大学でのエネルギーの発散が意欲十分に想像しえたことであろう。

自衛隊基地しか見たことのない自分には，滑走路がなんと貧弱に見えたことか。

問題のグライダーとやらを初めて見た。報告とやらをやって見た。機体点検とやらもやって見た。全てが初めてであった。どうもうまく行かずあせった。本当にとべるのだろうかな。向こうから何やら貫禄を無理やりつけた小さき者がやって来た。何だかわからないがキンクとかの説明を知ってのことか行っているらしい。こちらは全然無知で，わかるわけがない。　彼が目をすえて曰く，「オマエ／　キンクも知らんのけぇ」だと来やがった。『ふざけるな，俺は昨日入部したばかりなんだ。わかるわけがないじゃないか。うるせえな。いやらしい関西弁を使いやがって／』　我非常に苦しき心の中での抵抗であった。今にして思えば彼とは俺の最も尊敬する先輩の1人なんだから時の流れとはおもしろいものだと思う。

一泊二日の強行スケジュールによる合宿を終えて帰路に着いた時のあの船上からの高松の夜景は，印象的にさえ今なお我が脳裏に回想してくる。ひどくロマンチックになったと共に無性に故郷を恋し理性を失いたい気分にかられ，甲板の仲間から1人離れ只，何となく，事実，何とはなしに船内のバーで軽くウィスキーコークを喉に通して見た。

（部誌係註）じようだんじゃない。違反だよ，みんなまねするなヨ!!

空腹感と疲労感と船酔いの為頭がふらつく思いがした。静かに反対側の甲板へ上がり苦しさに耐えられず，喉に指を入れて見た。出るものは胃液ばかりであった。初夏とはいえ夜風は冷たく1人瀬戸内海上にいる自分は学生として又未成年者として恥づべき姿であったろう。

その1　単座機と将来

阿部克巳

我々が高校生であった頃の同志社大学の航空部の先輩達は，我々の為に全力を上げて今や総飛行回数10000回にもならんとするイオラス号の購入に努力してくれた。我々は見事に先輩達の見通しにこたえていると確信する。この2，3年中級はモチロン上級試験には全員が合格，大会のりっぱな成績，銀C章，科目合格者の続出と，すべてこれはイオラス，先輩の力の現われだと思う。しかし見通しが少し甘かった様にも思われる。当時の先輩達はまじめに議論したであろう。パチンコの時代は終りだ，2，，3年で必らずソァラーの時代がやってくるだろう。‥‥と，その時誰れがその23Cでグライダー歴3年にもならぬ青二才が銀C科目をとると予想したであろうか。今やその時以上に我々のグライダー界は変換期にあると思う。

H－23Cが普及したおかげで部員の技術も急速に発達した。又，グライダーがいかなるものかも我々ははっきり知る事が出来，その求むるところはとどまるところを知らない。時間は限られてはいるものの数少ないグライダー，練習場，教官，飛行機とくに単座ソァラー(一機もない)がないというために，我々のグライダー術は場周コースの訓練とほんのわずかのソアリング術にだけ終っている。その上最大の目的はくだらない選手権大会(少し誤っているかもしれないが現在の選手権の在り方からみれば，そうに違いないであろう。将来は当然変るであろう)にあるとは全く情けない。性能の悪い複座機でそのまねごとだけはしているものの，もうがまが出来ない。これからは一機でも多くの単座ソァラーしかも高性能をどんどんもつべきである。そして，1人でも多くの学生が自分でもっと良く研究，勉強し高度，距離，スピードに挑戦すべきである。専用の滑空場，引航用飛行機も当然必要になってくるだろう。そんな時代が必らず来る。そんな時代にすでに入っているのに(考えただけでも)現実には，その行動が何ら伴っていないとしたら許されないと思う。当クラブにおいては今にでも単座をのりこなそうという連中がめじろおしているのだから是非とも早急に単座ソァラーを入れ，前進せねばならない。

新人を斬る，突く，こま切れにする!!

作　編集部

◎ 南 村 清 治

一見やさ男であるが，合宿では，どこのヤーサンかと思うような奇声を発し，並いる純情な上級生連中を，オドロカセル強心臓の持主で，女と見ればどこまでもついてゆく変な男。

◎ 奥 川 裕 之

『我航空部コーチの後輩にあたり，その将来の活躍が期待され，女性には，目もくれず常に冷静に物事を判断し，かつクラブのマスコット的存在でありたい』とヌケヌケと云ってのける。全く想像出来ないタイプ，航空部一，二を争う好き者!!（但し，逮捕歴なし）

◎ 吉 岡 裕 二

合宿の帰りに，職務質問され，仲間が弁解にこれつとめ『彼は安全である』と説明したとか，しなかったとか。とにかく考古学者からも『シラントソンスル・ヘソクロス』の学名をつけられたとか。しかし，とても気の弱い女性にだまされやすいタイプ

◎ 箕 浦 健 二

我航空部では，毎年，厳選の上，ピグミー族からの留学生を許可しているが，66 年度の留学生が彼である。万事好都合に出来ている典型的は現代子タイプ。

◎ 萩 原 孝 二

似前まで，主たる訓練基地であった四国高松の産，人一倍気が長く，そばで見ていて，イライラする大器晩成型。その歩き方がイカシテイルと女性連中のもっぱらのうわさ。

◎ 中 山　弘

人生何事も経験，一途に思いつめ，不合理な事はどんどん排斥してゆく熱血漢。近頃めずらしい若者といえば聞えは良いが‥‥。つき合えば，京都育ちのボンボンタイプ。ギターを弾かせると抜群で，「マダムキラー」の異名をもらう程。

◎ 喜 田 牧 男

彼が入るまでは，自動車係の男が長身瓜１であったが，まさるとも劣らないノッポ。「大男云々」というが，反面非常に神経質な不思議な男。航空部一のフエミニスト。

◎ 花 井　　明

新人紹介のときの彼の印象は私が教会へ行ったとき，ブドウ酒につけたパンを口に入れてくれた人を思い浮べた。ボックスにいても常にほゝえみ忘れず，回りのふんいきに関係なくたゞほゝえみ，時折り気味悪くなる。神に一身をあづけているといった牧師タイプ。

◎ 先輩諸氏へ一言

この1年の姿を観察して，彼らが，一くせも二くせもある連中ばかりである事を報告します。一致団結して，頼もしい限りでありますので，御安心下さい。

昭和４１年自動車後始末の記

住　友　博　之

◎ ポンティアック（'55年）

昭和４０年５月購入似来，曳航車にはめずらしく幾多の困難にたえ，老骨にむちうって，若き翼のため働いてきたわけであったが，しよせん'55年生れの身にはかなりこたえたと見え，言うことを聞かなくなり。昨年１１月初め富山からの帰途，プロペラシャフトのジョイントが外れ走行不能となった。応急処置の後，京都に持ち帰りデフを取り換えた。今の状態では２３Ｃを引くのが精一杯であり，ばらばらになるのも時間の問題であろう。（注　４２年現在4つ眼のクライスラー５７年購入の為下取り）。

◎ キャデラック（'56年）

昨年の２月に同立戦のために購入した車で文字通り“黄色いキャデラック”として各校の注目の的であったが，電気系統の故障が続出し，やっとなおったと思ったら，今度はWater Pumpのところから水が滝の如く（over？）に流れ出し，ついにやむなく１１月に廃車としました。やはり美車（？？？？）であったわけ。

◎ プ リ ム ス（'56年）

本年１０月に本田先輩より寄贈していたゞいた車で，ＴＥＳＴ－ＦＬＹのため岡山で１０月末に引いたところ好調だったのだが，中免受験の合宿で不測の事態が起り，メタルの焼付となり，やむを得ず廃車とした。せっかくの車だったのにと，かえすがえすも

残念である。

◎　クライスラー（'57年）

我同志社もついに4つ目の曳航車を手に入れた（その為上記ポンテは去った）しかし。早くも岡山でダウンぎみ，目下クラブのその道のエキスパートが執刀中。

◎　未来の曳航車ロールスロイス

×月×日　新機体購入のため部内は金のことばかり．小生自動車係としてはふと，「新機体が入っても車がなかったらとばされへんやんか，ポンテももう数十年使ってるし，エアロスバルもオーバーホールやし，まさか最近買ったコンコードでは，ひかれへんし，このさい車一台買おうか？」とAB君に言った。彼は手を内ポケットに入れ「これ位で買えるやろ。」という事になり，ヤナセへ行き注文した。それから数ケ月．待望の新車ロールスロイスがやって来た。エンジンは最新のガスタービン600p.s.，R.H付フルリクライニングであり，運転席と後席との間には美しいカーテンがしてあった。「なんやこの車天皇さん（時の天皇は浩宮）のと同じやんかいさ」と麗しの彼女が言った。

筆者注

(1)　'67年卒業生のために言っておくとBoxはあの当時のオンボロ鉄筋をこわして地上6階地下2階の航空部Boxとなっており，部員は300名．航空部員は4年間試験なし，全員ALL「優」で卒業となっており，航空部への入部希望者多数のため，当時の入試と同様英，数，国and身体検査（色盲はだめ）があり，その倍率は昨年，43倍であった。女子部員は大和なでしこ（当時は大和だいこんであったそうな）のみをとり。女の子のケッコンの条件として，同大航空部出が要求されたため全日本女性のあこがれのマトであったわけ。

(2)　今はグライダーの方がジエット機より高くなり，1機数百億円するのである。

「そやけどこの車も2－3ケ月つかうとだめになるしなあ，つぎはキャデラックにしようか。」

……

「この子なにねぼけてんの，正月早々はよ起きなさい。」

君もがんばれ，我々もがんばる

今回のグライディング発行にあたって，部誌係では，クラブの１，２年を主たる対象にしてこの１年間の反省と，将来のクラブに対する考え，希望等をアンケートしてみた。しかし，残念ながら，多数の協力をうる事が出来なかった。この事は，はたしてどういう事を意味するのであろうか。彼らは，自らの意見を満足に主張する勇気と自主性がないのかそれとも，この企画自体が，ナンセンスだったのであろうか。その事に関する批判は，又別の機会に述べる事が出来るであろう。こゝでは，協力を惜しまず投稿してくれたものの中から，共通の問題を考えてみた。総括して，現在の学連に対する疑問と不満があった。それは多分に形式化した　前時代的な組織　のようなものが超近代的なスポーツの場を支配しているのではないかという事なのだ。確かにそのような場面に直面する事があることは否定出来ないだろう。しかし，それを我部が，盲目的に，「無批判に行っている」などという事は云えるだろうか。君が思っている程幹部連中が盲目的であろうかというと，決してそうではないと断言出来る。君が疑問に思い悩んでいる事柄を上級生も同じように疑問に感じたり反発したりしたものであるし，又，現時点に於ても疑問に感ずる点がないわけではない。しかし，それらは，序々にではあるが，改善されているということも知らねばならないであろう。君が今不合理と感ずる点も，やがて君が幹部となるときには，我々の協力と熱意で改められていよう（それが実際に理にそぐわないものであれば）。

こゝで一つの問題がある。それは，君が形式化したものには抵抗を感ずると，している事だ。確かに，形式化して無意味なものもあろうけれども，反面，形式化して正当なものがある事も考えねばならないだろう。法が形式化しているからといってそれを無視出来ないように。

次の問題も下級生が一様に一度は抱く疑問であった。それは，クラブの役職の選定なのだ。或る大学では，全員の投票によるという所もないわけではない。しかし，我部に於てはそれが，暗黙のうちに了解されて自然に決定されていると云えよう。それは，君が「車の運転がうまく，車の知識に豊であれば自然と自動車係になっている」といったごとく自然なものであり，君に「統率力があり，責任感にたけているなら（決してこれだけではないことは当然であるが）君は将来主将になっている」であろうような軽い気分のものであ

り，「自分達には，主将を選ぶ権利はないのか」といった重苦しい気分で選ばれるものではないという事である。

クラブ員全員による選挙などという形式化した方法でなくとも我航空部はスムーズに引継ぎされているという事に誇りをもとう。

たゞし，幹部に対する疑問があればいつでも部会なりで問いたゞす事が出来よう。今は君が1日も早く一人前のパイロットにならなければならないときだ。クラブの運営に関する事など（実際，好きでその役職を引受けているものは殆んどないのだから）年寄りにまかせて技量の高上に頭を使うべきだ。

「最高のスポーツであるグライダーが誰にでも出来るように」互に努力しよう。どこかの政党のうたい文口ではないが，「君もがんばれ，我々もがんばる」よ。

新ＯＢ何処へ？

卒業生一同：何処へ行くたって，いったい何処へ行きやいいんだ。夕暮れの浜辺を貝殻ふみながら……　キビシー!!

一円新ＯＢ：私は全天候型，室内環境清浄器の販売に一身をささげるつもりでありまして航空部にはさっそく一台寄贈したいと思っています。

森本　〃　：岩倉の下宿のネエチャンと別れとうないし，今しばらくは情況をみる方が良いのではないかと，僕のパパが云うものですから!!

桐山　〃　：カネテツのテッチャンも悪くはないと思うネンけど，それよりも誰かエエ養子の口ないか？

河盛　〃　：何処へ行くかって？　うるさいなあ，とにかく $2H_2+O_2 \rightarrow 2H_2O$ なんや!!　第一僕は，学者肌やしな，教授も離したくないのやろ!!　（シェー!!）

という訳で，バンカラ人生の出発です

――― この道より我を生かす道なし

我この道を歩む ―――

同志社大学体育会航空部名簿

（S 42. 4現在）

役職	氏名	住所	電話
部長	小野 哲	京都府綴喜郡田辺町字興戸	(山城田辺) 268
監督	北尾直敬	同上	
	朝日大阪本社航空部	大阪市北区中ノ島3－3	大阪 (231) 0131
コーチ	窪田昌三	兵庫県川西市寺畑沢田23	
	大西商会KK	大阪市南区竹屋町28	大阪 (211) 3373-5
	中河英裕	京都市上京区武者小路新町 溝口方	
		兵庫県加古川市尾上町池田621	
	赤見優	京都市中京区壬生柳ノ宮町22	
	文4		
前年度主将	桐山隆	京都市右京区桂野里町2	(38) 3144
〃副将	河盛啓晏	奈良県生駒郡生駒町俵口224	(生駒) 2747
〃主務	森本勇	京都市左京区岩倉中町60 山本方	
	工4	大阪市住吉区万代東3－43	
〃会計	一円億夫	滋賀県彦根市上薮下町23	(彦根) 974
主将	竹鼻信昭	枚方市字坂817～7	枚方 (57) 6565
	経4		
副将	阿部克己	京都市上京区室町寺の内上ル西入ル 高見方	
	工4	福島県伊達郡月舘町御代田大平18	
副将	佐藤真二	堺市浜寺石津町西4－271	堺 (42) 6591
	工4		
主務	山田冽史	京都市北区鞍馬口通り千本西入ル 中村方	
	工4	新潟県関屋田町3－367	

自動車	住友博之 工 4	西宮市甲子園2－25	西宮 (48) 0161
機材	鬼頭章浩 経 4	京都市上京区相国寺東門前町　上野方 三重県四日市市西浦町	
	岸田道子 文 4	京都市下京区堺町高辻下ル夕顔町	(35) 2819
	高橋実寿々 文 4	京都市下京区西七条北東町13	(37) 7335
	徳永和子 文 4	京都市下京区西七条市部町98　高橋方 熊本県水俣市大黒町2－3－12	水俣 3927
部誌	北村悦造 経 4	大阪市旭区大宮西ノ町1－32	大阪 (951) 8585
自動車	木村保 工 4	京都市左京区岩倉下在地町46　鎌田方 京都府加佐郡大江町南有路1300	(大江) 3002
	田畠宏 工 3	京都市中京区柳馬場押小路下ル　佐々本方 北海道釧路市浦見町2丁目41番地	
	広瀬仁武 経 3	京都市左京区修学院烏丸町12　山本方 静岡県浜松市広沢町50－2	(79) 0742
	谷川英夫 工 3	京都市下京区西木屋町正面下ル八王子町111	(37) 0724
	小野田教弘 法 3	京都市左京区一乗寺河原田町49　青木方 静岡県浜名郡可美村高塚4591	
	加藤賢治 工 3	京都市南区西九条川原城町21 名古屋市熱田区西町通り2－8	
	市田稔 工 3	京都市伏見区深草キト口町4	
	吉岡右二 経 2	豊中市三和町3丁目1－17	
	南村清治 文 2	堺市東湊町1－103	堺 (43) 6345

	喜田牧男	京都市上京区小川通り今出川上ル 仲小川町　西野方	
	工2	兵庫県加西郡北条町福居541	(北条) 538
	奥川裕之	大阪府茨木市中村町3－16	
	工2		
	中山弘	京都市中京区衣棚通二条下ル	(23) 3731
	法2		
	箕浦健二	京都市左京区田中樋し口町20　丹羽方	
	工2	岐阜県羽島郡松野新町7	(笠松) 2224
	萩原考一	京都市上京区六軒町通下長者町下ル 言永方	
	法2	高松市屋島西町四電かた元アパート502号	
	花井義明	京都市左京区下鴨宮崎町43　細野真一方	(79) 1522
	工2	兵庫県揖保郡御津町中島1100番地	

編　集　後　記

“グライディングNo.9”の発行が遅れました事を深くお詫び申し上げます。

我部の活動も年々活発になり，話題，報告も増えてきました。全国大会，銀C章獲得，さらに高性能単座機購入へと，大きく飛躍しようとしています。それと同時に本誌の中味もどんどん，ふくれ上り，編集部員は，記事の選択に一苦労でした。

我部が大きくジャンプする時，OBと現役との結束の力が，何よりも強力な推進力となるでしょう。

※ 原稿を寄せて下さいましたOBの方，部員の皆さんご協力有難うございました。

※ OB名簿を掲載しましたが，誤りや，住所不明のOBの方々の消息をご存じの方は御手数ながらお知らせ下さい。

航空部ＯＢ名簿

卒業年度	氏名	住所	勤務先
14 経	尾田幸雄	大阪府羽曳野市羽曳ヶ丘1丁目	大阪市東区北浜2丁目53 共同石炭鉱業所KK(231) 6845
16 経	石田文雄		東京都千代田区有楽町2の3 朝日新聞東京本社航空部
16 経	牧野伊兵衛	京都市左京区下鴨貴船町97	朝日新聞大阪本社航空部
16 経	竹内清逸	京都市北区出雲路神楽町11	京都市中京区西洞院三条西入ル 東洋金属粉KK (22) 1259
16 経	橋本元雄	神戸市長田区片山町1の75	農林省兵庫食糧事務所
16 経	中村元次郎	大阪市阿部野区文の里1の3の15	大阪市西淀川区御幣島中4丁目 22近畿印刷KK (472) 1321
16 経	西田勤	八尾市服部川1147の5	大阪府布施市上小阪町2丁目56 坂本病院
16 経	村上清		神戸市生田区海岸通1 宮地汽船KK
17 経	白地和敏	大阪市東淀川区十三西の町3の40	大阪市東区安土町4丁目55 田村駒KK (231) 0564
18 法	岡山厳		トヨタ自動車
18 経	市川文男	岸和田市春木町45	
19 法	森茂	京都市中京区間之町通竹屋町 下ル	
19 法	塩見周二	宇治市大久保町大竹15の34	
19 経	牧野鉄五郎	西宮市南昭和町100	朝日新聞大阪本社航空部 日本学生航空連盟
19 経	確井宏司	大阪府北河内郡四条綴町清滝 281 TEL大東(76) 5296	東京鋼鉄工業KK 大阪営業所 (771) 5663
19 商	喜多達雄	名古屋市千種区唐山町1の28 東洋アパート302号	
19 商	大森賢次	神戸市須磨区下兼広町14	
19 経	友広勝	静岡市大岩室下町6(52)3342	
19 法	角田信三	一宮市大和町字毛受2061	大平織工KK
19 法	柳井恒郎		山一証券

卒業年度	氏　名	住　所	勤　務　先
19経専	紀平種三郎	京都市中京区油小路夷川上ル	
19経専	千葉麗三	東京都府中市7727の17	東京都中央区日本橋本町2丁目山之内製薬
19経専	本田芳郎	金沢市中央通町3の19	
20外専	上田昌三郎	京都市左京区北白川東平井町17	京都市下京区松原室町東入ル上田喜KK
20外専	岡本清	大阪府泉北郡高石町東羽衣5丁目8番4号	大阪新日電販売KK
21経	金沢頴男	奈良県天理市河原城	金沢義布斯選造合名KK
21法	河合達也		大阪住友海上火災
21経	川島隆男	東京都港区西久保桜川町1番地	川島織物工業KK
21経	千宗室	京都市上京区小川通寺之内上ル	裏千家　家元
21商	田中文二	大阪市住吉区田辺西の町8の22	大阪市東区安土町4の32蝶理KK（261）7931
22経	佐々木哲	神戸市東灘区本山町田中元清水18	大阪市東区南久太郎町4丁目大和ビル6階兼松KK大阪支店
22経	西山清		
22経	岡山宗平		日新通商東山寮
23経	渡辺四郎	東京都武蔵野市吉祥寺北町4丁目4番地27号	
23経	岩室清		
23経	沢木敬	京都市北区紫竹下竹殿町32の1	京都市上京区小川通寺之内上ル「千茶道」会事課
23経	納屋嘉治	京都市北区衣笠東尊上院町10の1	京都市上京区堀川寺之内上ル淡交社KK
24経	木下正一	京都市下京区西七条八幡町32	
24経	小杉英夫	横須賀	大阪メリヤス
27工機	楠努	堺市上野芝町1ノ296	スーパー工業KK設計
27工機	大角勇	京都市左京区田中上柳町22	
27工機	長城義幸	京都府相楽郡木津町字梅谷	大阪金属堺工場
27工機	井尻宏		京都市上京区鞍馬口堀川西入ル大日本スクリーンKK
27工機	松田要	彦根市高宮町斗代	大日本スクリーンKK

卒業年度	氏　名	住　所	勤　務　先
27工(機)	宮田正士		日本製粉
27工(機)	山本明夫	京都市左京区南禅寺下河原町4	
27工(機)	児玉猛	京都市左京区下鴨西半木町85	日本整容専門学校
27工(機)	中村雄三郎	京都市南区吉祥院八反田町33公団住宅3の503	
27工(機)	明石信二		専売公社
27工(機)	木戸清	名古屋市守山区小幡字西島33の2	三菱重工業KK名古屋航空機製作所
27工(機)	西野巳悦	伊丹市鈴原町8の15	全日空KK大阪運航所
27文	柳島紹志		大阪市東住吉区東住吉中学校
27文(社)	内藤修		
28商	奥西章郎		おく信
28経	今西駒治	奈良市八条町815	奈良市橋本町16南部銀行
28商	大竹幸雄	名古屋市昭和区汐見町13	
28工(機)	紫山健	名古屋市千種区虹ケ丘中団地2号棟404	名古屋市中村区島崎町1の1豊和工業KK (53)1561
28工(機)	田中邦正		
29商	吉川複一	名古屋市中区錦2丁目20番20号	大和生命ビル　泉株式会社
29工(機)	渡辺洋一	高槻市富田町総持寺公団住宅36－507	鉄鋼短期大学教授
29工	藤田武司	福井県鯖江市有定町向山24の22	
29商	稲田実次	香川県大川郡引田町松の下235の1	
30商	北尾直敬	京都府綴喜郡田辺町字興戸	朝日新聞大阪本社航空部
30文(社)	増田寛治	芦屋市打出出翠千丘北住宅1546	大阪市東淀川区国次町924日清ペイントKK営業部
30工(機)	大岡秀生	横浜市港北区日吉本町973の2	航空自衛隊
30工(機)	小西市郎	滋賀県犬上郡甲良町小河原	ヤンマーディーゼルKK　大阪店
30法	中島吟三	大阪市都島区大東町3丁目都島公団住宅8号館303	

卒業年度	氏　名	住　所	勤　務　先
３０工(機)	佐野　真	宝塚市南口２丁目４の１４	大阪市此花区島屋敷町４０６ 汽車製造KK　大阪製作所
３０工(機)	清水正彦	奈良県天理市前栽１５０	
３０工(機)	下神好男	福井県坂井郡三国町上横	
３０工(電)	佐野宏樹	大阪府羽曳野市東大塚４４６	
３０　経	寺田吉男	京都市下京区不明門通五条下ル	ナショナル電化販売
３１工(機)	須子英二	大阪市大淀区長柄浜町２丁目 １５番地　本州製紙KK淀川寮	本州製紙KK
３１工(機)	坂口一彦	香川県小豆郡大部村 大部	
３１　文	安藤カチ子	伊丹市北村字大鹿口３２３の8	
３２　商	藤田圭一	八尾市上の島町南５－２９	森田ポンプ特殊工業KK
３２　商	喜田益生	大阪市北区南同心町１の９	
３３　商	岩ヶ谷精一	静岡市大工町２の４	岩ヶ谷商店
３３　文	浅山　浩		読売新聞社
３４　法	北尾治雄	京都市下京区四条通堀川西入ル	東海銀行烏丸支店
３４　経	大森　進	兵庫県宝塚市月見山１２	布施市足代２の２２ 岡三証券布施営業所
３５　法	三浦智介	西宮市段上町四丁目１１４	大阪市東淀川区野中南通り 桜製作所
３５工(機)	向井清人	名古屋市緑区鳴海町大将ヶ根 １３の１４愛知寮	愛知機械工業
３５工(機)	大島将司		東洋電機京都工場
３５　法	高瀬宗次	京都市東山区山科御陵血洗町25	大阪市東成区森町南１丁目１７
３５　文	上田伊津子		
３６工(機)	政　志郎	尼崎市森字伊佐子２２９	堺市旭ヶ丘北町１の１２ ダイキン堺製作所冷機部
３６工(機)	釣　弘和	大阪府枚方市中宮渚８８３の２ 小松製作所第１寮	
３６工(機)	守本輝夫	京都市上京区智恵光院今出川上ル	ヤンマーディゼル
３６工(機)	粂川徹夫		

卒業年度	氏　名	住　所	勤　務　先
37 商	瀬川　潔	大阪市阿倍野区三明町1丁目8－23号	大阪市西淀川区千丹東1の9 KK 梁瀬
37 経	田原耕造	京都府乙訓郡向日町植野小字北小路62の6	大阪市東区南本町4丁目有楽ビル5階 第1レース大阪事務所
37 経	原　啓介	大阪市住吉区粉浜本町3の14 イトーチユー石油粉浜寮	伊藤忠石油
37工機	河口精二	東京都目黒区自由ヶ丘1の2の26 岸方	
37 商	水口啓二郎	福岡市大字田島83の6 楠田事務機寮	楠田事務機
37 経	田中将臣	熊本県上益城郡甲佐野大字中穂田918	
38 経	槇原直之	広島市大手町5丁目22号 石原繁夫方	広島市八工堀13番15号 オイレス工業KK広島出張所
38 経	丹羽正拡	京都市北区紫野上柳町12	大阪府守口市京阪本通り2丁目18 三洋電機株式会社
38 商	鳥田一夫	東京都三鷹市井の頭5－15－16 小原方	東京都中央区銀座東4丁目1番地丸正ビル野沢石綿セメントKK東京営業所
38 法	青木謙二郎		東京いすず自動車KK
38 文	上田知恵子	奈良市法蓮町1330	
38 商	近藤甲平	佐賀県東松浦郡浜崎玉島町大字浜崎22	
38 化	斉藤良和	愛知県小牧市大字横内317 日本フェローKK 小牧寮	日本フェローKK
38 電	佐藤忠昭	西宮市津門綾羽町89	大阪市此花区島屋町406 汽車製造KK 大阪製作所
38 商	繁原直之		日本文化シヤツターKK
	豊浦順真		末広
38 電	山上皓太郎	埼玉県入間郡武蔵町字中原857 テイアツク独身寮	テイアツク オーディオ
38 文	加藤芳也		飛鳥木材KK 大阪営業所
39 法	窪田昌三	兵庫県川西市寺畑沢田23	大阪市南区竹屋町28 KK大西商会 (221) 3373
39 法	樺島紳一郎		野崎産業KK 航空機部
39 経	小袋宏毅	徳山市毛利町3丁目72 山口銀行 有隣寮	徳山銀座一丁目山口銀行 徳山支店
39 経	川上哲也	大阪府池田市石橋四丁目113の4	大阪日産自動車KK販売部
39 文	末吉幸代 (旧姓 藤井)		

卒業年度	氏　名	住　所	勤　務　先
39 工	成瀬晃三	名古屋市緑区鳴海町字尾崎山43の209三菱重工第5菱国寮	三菱重工名古屋自動車製作所
39 法	安元英生	東京都品川区大井7丁目12－12宇都興産株式会社太洋寮	宇部興産KK東京支社セメント営業部営業課
39 商	知野進一	高槻市城西町11の7栗田工業高槻寮 (5)5326	大阪市大淀区豊崎西通り1丁目栗田工業KK
39 商	玉井利宏	大阪府布施市金岡37 (721) 7363	玉井石油
39 経	石元勲	大阪府茨木市大字郡~~2の1~~ 911	大阪トヨペット茨木営業所
39 経	末吉武二		大同生命相互保険KK
39 商	梶田英之	東京都府中市是政1丁目20	東京都中央区日本橋室町2の8昭和興産KK経理課
40 工(機)	田地川彬	東京都中野区大和町2丁目23の8藤田金属㈱高田寺寮	東京都文京区駒込上富士前町31理化学研究所
40 工(機)	山田裕章	東京都中野区富士見町40日本ラジエーター寄宿舎	日本ラジエーター
40 文(社)	岩崎俊樹	東京都世田谷区上北沢町1の366 鈴木進方	日刊スポーツ
40 法	緒方敬一郎	福岡県筑後市大字常用1353 福岡局2354	山の井運送
40 法	中村裕紀	西宮市丸橋町114 西宮(2)3949	五海電機強電部
40 経	田中信	新潟市田中町5173 中山方	新潟県米穀株式会社(23)4131
40 経	正木宏	福知山市常願886 立原局7925	福知山市役所
41 工(電)	中河英裕	大阪府高槻市宮野町18－9	
41 商	桐山隆	京都市右京区桂野里町2 (38) 3144	キヤノンKK
41 工(化)	河盛啓晏	奈良県生駒郡生駒町俵口224 生駒局2747	

DOSHISHA, UNIV. AVIATION CLUB.